

(別添 2)

No.	4
策定年月	令和4年6月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆産地生産性向上計画

飯島町農業再生協議会

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

飯島町は全耕地面積に対して主食用米が約6割をを占める水田地帯であり、その他に麦・大豆・そばを合わせた土地利用型農業を行っている。その中で、麦・大豆は近年、主食用米の国内需要減少と米価が下落する中で、水田からの転作及び畑作振興として重要な作物であるとともに水田面積を維持し、安定した水田農業経営を実現するには、より麦・大豆の拡大及び生産安定を推進する必要がある。

現在飯島町における麦・大豆の生産振興については、地域複合営農への道パートV(飯島町農業農村振興計画)及び飯島町水田収益力強化ビジョンに沿い、機能性や加工性等に優れた品種の導入、基本技術の励行、スマート農業の導入による省力化による安定生産と品質向上に努めるとともに実需者の期待に応える産地づくりを目指す。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

- ・麦、大豆ともに、JA上伊那を通じて県内外の製粉企業に販売され、ハナマンテンは中華麺等、ファイバースノウは麦茶や押し麦等、大豆は加工品等に利用されている。
- ・小麦、大麦については、実需者から生産拡大を求められているが、十分な量を生産できないでいる。
- ・大豆については、実需者から需要のある品種の安定供給が求められている。

(2) 生産における現状と課題

- ・麦、大豆とも圃場の排水不良と難防除雑草により収量の低下がみられる。作付面積は水田からの転作作物として増加傾向である。
- ・麦大豆ともに法人や担い手への集積化が進み、団地化率が微増している。水田からの転作を行っていることもあり、団地化率は減少している。スマート農業の導入や団地化をさらに進め、省力化が必要となっている。
- ・小麦は収量・品質の向上を図るため、産地や品種に応じた施肥等の栽培技術の確立が必要である。
- ・大麦「ファイバースノウ」について、全国的な大麦の在庫増加を受け、一時的に民間流通連絡協議会における販売予定数量が購入希望数量を上回っている。しかしながら、取引先であるJA上伊那においては、実需から一挙に減産することは求められていないとのことから、引き続きJA等を通じた需要量の把握と調整が必要である。
- ・大豆では圃場ごとのカメムシなどの病虫害被害対策をし、品質低下を抑える。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		元年産	2年産	3年産(現状)	元年産	2年産	3年産(現状)	元年産	2年産	3年産(現状)
小麦	ハナマンテン	5.5	4.9	9.4	320	270	230	17.7	13.1	21.7
大麦	ファイバースノウ	26.0	25.4	25.4	325	400	383	84.6	101.6	97.4
作物計		31.6	30.3	34.9				102.3	114.7	119.1

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		元年産	2年産	3年産(現状)	元年産	2年産	3年産(現状)	元年産	2年産	3年産(現状)
大豆	ナカセンナリ	10.9	6.8	9.5	161	170	140	17.5	11.6	13.4
	ギンレイ	3.8	3.3	3.0	160	172	134	6.1	5.6	4.1
作物計		14.7	10.1	12.6				23.6	17.2	17.4

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	元年産		2年産		3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	ハナマンテン	1.4	25.9%	1.3	26.7%	2.6	27.5%	
大麦	ファイバースノウ	10.0	38.3%	13.9	54.7%	12.7	49.8%	
作物計		11.4	36.1%	15.2	50.2%	15.3	43.8%	

作物名	品種名	元年産		2年産		3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	ナカセンナリ	2.8	25.4%	4.2	61.3%	5.3	55.5%	
	ギンレイ	0.4	10.4%	2.2	68.5%	1.4	45.6%	
作物計		3.2	21.5%	6.4	63.6%	6.7	53.1%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

団地は、助成水田における基幹作の麦・大豆1ha以上の連坦団地で、複数人で団地化となる場合にも対象とし、2品目の場合は2ha以上とする。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。